

千島及離島ソ連軍進駐状況綴



- 集録文書の作成日（最初と最後）
昭和20年8月17日～昭和21年7月4日付
- 文書数 72件
国後37件 択捉17件 色丹 8件
歯舞7件 北千島1件 その他2件
- 電報 20件
国後11件 択捉8件 色丹1件

千島及離島ソ連軍進駐状況綴は、北海道の公文書

で昭和二十年八月十五日の終戦以降、北方四島にソ連軍が侵攻してきた際の状況報告が綴られています。

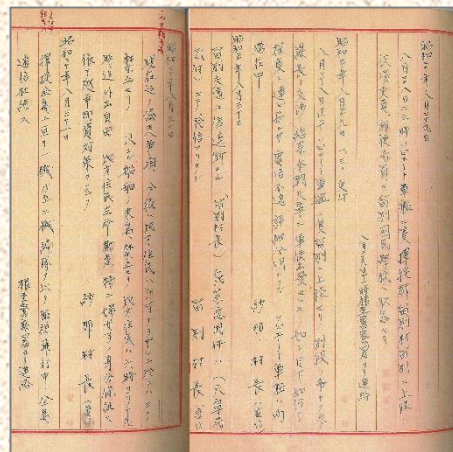
ソ連侵攻直後は、まだ一部の地域で通信機能が維持されており、根室支庁と各役場など官公庁との連絡は電信や電話で行われていました。通信機能が完全に奪われてしまっただけで、脱出者や船舶関係者からの報告、聴き取りでしか四島の状況を把握する方法はありませんでした。

この綴りは根室支庁（現 根室振興局）に保管されていました。平成四年に北海道立文書館に引き渡され、永年保存文書として保管されています。

昭和二十年 八月二十八日		午前	正午	二十三時	五時	六時五十五分	八時
ソ連の五、六百ノ級の駆逐艦と輸送船各一隻が択捉島北方から、紗万部、別飛の沖合をへて留別に到着し、海軍少佐の率いる約一個大隊以内の陸戦隊が正午頃上陸した。		ソビエト軍艦二隻留別に上陸せり。別段の事なく、参謀長と交渉の結果、本朝天寧に軍使出発せるものの如し。目下如何なる程度に運び居るや電信不通。詳細分明ならずソビエト軍艦は尚滞在中。	ソビエト軍艦二隻 択捉郡留別村留別に上陸し 役場吏員 郵便局員を留別国民学校に收容せり	連合軍の一部約三百名は、古金布に上陸し、その一部約二十五名は目下泊に向け陸行しつつあり	ソ連船三隻 色丹村斜古丹港に入港す旨 通報ありたり七時上陸開始 兵数不明 港湾施設及道路破壊しつつあり	軍艦四隻、国後より根室方面に向う ソ連軍艦五隻古金布に入港せり 三百上陸 植内沖にも分散す ソ連軍は斜古丹に駆逐艦、海防艦、輸送船で約五千六百人が上陸	歯舞村各離島にも九月三日ソ連軍上陸せるも人員行動不明なり
九月三日		突然軍冠湾に約二万屯級の輸送船三隻が入港し、直ちに優勢なソ連陸軍正規部隊が天寧に上陸 歯舞村離島のソ連軍は志発二百名、水晶十九名、多楽二十名（勇留不明）（秋勇留駐屯せず）にして民家の涼奪、暴行等もなき模様なるも婦女子の引揚者千五百名。志発島は船舶航行可能なり。					
九月六日							

※内容一部抜粋

千島及離島ソ連軍進駐状況綴 (その二)



【解説】

択捉島留別村の警察署や村長、紗那村長からの電報をまとめた文書で、交通・通信が遮断され、徐々に全島が制圧されていく過程が報告されています。

【対訳】
昭和二十年八月二十九日
八月二十八日二十三時ソビエト軍艦二隻択捉郡留別村留別に上陸 役場吏員 郵便局員を留別国民学校へ収容せり
八月二十九日十一時根室警察署より連絡

昭和二十年八月二十九日 一、三〇受付
八月二十八日正午ソビエト軍艦二隻留別に上陸せり
別段の事なく 参謀長と交渉の結果 本領天寧に軍使派遣せるものの如し目下如何なる程度に運び居るや 電信不通 詳細分明ならず ソビエト軍艦は尚滞在中
紗那村長

昭和二十年八月三十日
留別交通通信遮断さる(留別村長) 宛緊急要件は(天寧局気付)にて発信ありたし
留別村長

昭和二十年八月三十日
現在迄の協定事項 今後は地方住民は許可ならざるに於いては□□□(意味不明)禁止せり 凡ゆる船舶の来島禁止せり 地方住民は六時より十九時迄外出自由地方住民生命財産 特に婦女子の身分保証す 依つて越年物資対策を乞う
紗那村長

昭和二十年八月三十一日
択捉全島に亘り一機乃至二機編隊を以て監視飛行中
全島通信杜絶す
根室警察署より連絡



【対訳】
留別村長から根室支庁長宛の電報
昭和二〇年八月三十一日 后三時受
言語通ぜず 至急通訳派遣せられたし

【解説】

「言語が通じないので至急通訳を派遣してほしい」と根室支庁へ要請する電報
※進駐したソ連軍の中に通訳と称する軍人がいたが、通訳としてのレベルは低く、その人数も少なかったため、大変苦労したとのこと。